

あなたの「まなび」をナビゲート！ enjoy lifelong learning

ma·navi

生涯学習とっとり
vol.
186
2020.1
鳥取県生涯学習情報誌



ぺっ！やしろのメンバーがデザインしたユニフォームを着て、パチリ！

特集

活動をとおして 感動を共有する

ぺっ！やしろ

- 04 私たちの活動をご紹介します！
よなご傾聴しあわせの会(米子市)
- 05 とっとり県民カレッジ連携講座情報
(1・2月)
- 23 学校・家庭・地域で鳥取の子どもを
育てましょう！
- 24 とっとり県民カレッジ講座を開催しました
- 25 鳥取県立生涯学習センター(お知らせ)
- 27 みてみて♪こんなしとるで～



地域の五輪まつりに出演

活動をとおして感動を共有する

～ぺっ！ やしろ Passion & Emotion ～

倉吉市^{やしろ}社地区で、若い世代を地域の担い手として育てていくことや地域の団結力を強くするために、新たな企画を実践する「ぺっ！ やしろ」。活動について、メンバーのみなさんにお話を伺いました。

長い目で社の地域課題を探る！

倉吉市社地区は人口5,081名2,056世帯（令和元年10月末時点）で、^{ほうきこくあまごくちやうあと}伯耆国府跡国庁跡や^{ほっけじほたいせき}法華寺畑遺跡など多くの史跡が残り、黒見焼・福光焼などの陶芸がさかんな「史跡と陶芸のまち」です。

公民館事業のマンネリ化と参加者の固定化が問題となっていたころ、平成27年度に倉吉市公民館研究指定事業として座談会「やしろカフェ」が年4回開催されました。この「やしろカフェ」では、これまでの公民館事業をいったん白紙にもどして住民の声を聴き、中・長期的に社の地域課題を探ることを目的に「公民館活動」「少子高齢化」「人材育成」「こんな社にしたい！」という4つのテーマでワールドカフェ方式⁽¹⁾により話し合いが行われました。

1回目の参加者は10名程でしたが、少しずつ参加者が増え、4回目には30名以上になりました。「お菓子を食べなが



ワールドカフェ方式で話し合いを重ねた「やしろカフェ」

らコーヒーを飲みながら、みんなでざっくばらんに社の課題をどんどん挙げていくうちに人が増えていった感じですね」と会長の福井さんは話します。4回の「やしろカフェ」では、1年目に「若者の公民館活動への参加促進」、2年目に「異世代交流の促進」、3年目に「活動の集大成」を計画しました。翌年の平成28年に「やしろカフェ」で検討したメンバーを中心に、PTA や子ども会とは別の若い世代を中心とした自主グループ「ぺっ！ やしろ」が結成され活動がスタートしました。

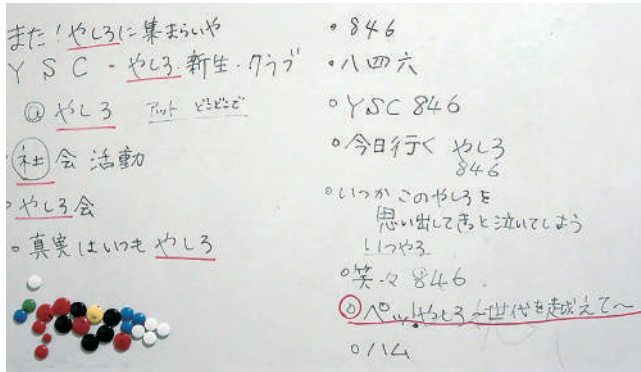
※（1）カフェでくつろいでいるようなリラックスした雰囲気のもと4～5名ずつに分かれ、テーブルごとに対話をする。一定時間が過ぎれば、一人を残してテーブルメンバーを入れ替え、対話することを繰り返す行うことで議論を深めアイデアの共有を行う。



会長の福井隆彦さん（後方左端）とメンバーのみなさん

グループのネーミングにも工夫を凝らす

「いろいろな世代にわかりやすい名前はなんだろう？」と
考え、当時流行っていた芸人のセリフや韓流スターなどに
ちなんだグループ名にしました。また、「ぺっ！」には「情
熱 (Passion)」と「感動 (Emotion)」の意味も込められてい
ます。情熱を持ちながら、活動をとおして地域のみなさん
と感動を共有することを目指します。



みんなでグループ名を試行錯誤。いろいろな案ができました。

これまでにないアイデアで

「活動の1年目はもう手探りでしたね。とにかくみんなで
アイデアを出し合って、どうやったら公民館に人が来てく
れるかを考えました」と振り返ります。1年目に企画して実
施した「泥んこバレー」は現在も続いている人気のイベン
トです。社小学校の前にある耕作放棄地で泥んこバレーを
した後は、軽食を食べながら参加者同士で交流を深めたり
、表彰式をしたりするなどの「おたのしみ」や「サプライ
ズ」も考えました。そのほか、いろいろな企画に挑戦しまし
たが、10月に鳥取中部地震が発生。社公民館も被害を受け
、活動そのものができない状態となりました。そのため、活
動をいったん休止し地域の方といっしょに地震で崩壊した
五輪さんの復旧作業にあたりました。

中部地震の復興に協力



活動1年目の平成28年10月21日に中部地震が発生。
11月以降に予定していた企画を全て中止しました。
「五輪さん」と呼ばれる地域の歴史公園の五輪塔が地震
で倒れてしまったため、「地域の役に立ちたい!」とい
う一心で、復興作業に協力しました。



大人もハッスル! 泥んこバレー

2年目は、「どうしたら、小さな子どもたちやお母さんも
参加したいと思ってくれるか」と考え、新たに「ハロウィン
パーティー」を企画。大人も子どもも楽しめるハロウィン
パーティーを開催したことで、子どもから高齢者まで幅広
い年齢層の人が公民館を利用するようになりました。また
、活動をとおして「ぺっ! やしる」の仲間も増え、メンバー同
士のチームワークもできました。



大人も子どもも楽しめるハロウィンパーティー

公民館指定事業としては最後の年になる3年目は、1年目、2年目の集大成として、公民館から自立してより主体的な活動へと移行することを目標に活動しました。その一つ、地域を巻き込んだ「ペットボトルツリー」では、みんなで点灯式をしたときに歓声があがり、子どもたちも大喜びしました。そのほか、五輪まつりへの出演やみつばし踊りへの参加、文化祭への出店など地域活動にも積極的に取り組み、活動の幅を広げる工夫をしました。また、平成30年10月に開催された鳥取県社会教育振興大会※(2)において、青少年育成をテーマに「ぺっ! やしろ」の活動について発表しました。

※(2) 全県の社会教育委員をはじめ、社会教育関係者が一堂に会し、地域づくりや人づくりに向けた生涯学習・社会教育活動の今後のあり方について考え、本県における社会教育の充実に資することを目的として毎年開催される。



ペットボトルツリー 土台になる部分のペンキ塗り

次の世代の子どもたちに

「メンバーが柔軟な発想でアイデアを出し企画を実現していく中で、『こうしたらもっとよくなる!』といった意見がたくさんです。本当にありがたいですし、すごいなあと思います」と福井さん。「その中で、『待った!』とちゃんと言ってくれるメンバーもいます。だから、冷静に立ち止まって考えることができるんですよ」と続けます。

「『ぺっ! やしろ』の取組をとおして、社地区の若者ががんばっている姿を次の世代の子どもたちに見せることができたことが大きな成果」と話す福井さん。「活動に参加した今の小学生が大人になったときに、メンバーに加わっていただければ最高ですね」と他のメンバーもにっこり。

活動をとおして、社の子どもたちが力をつけて次の社を担っていく存在になることをメンバーみんなが願っています。



ペットボトルツリー
設計もデザインもメンバーで考えます。点灯した瞬間は歓声がおこります!



「倉吉打吹まつり」の「みつばし踊り」に参加

連絡先 ペっ! やしろ TEL090-3639-5195 (会長 福井隆彦さん)

私たちの活動を紹介します

米子市

よなご傾聴しあわせの会

寄稿：代表 まつなか やすし 松中 靖さん

<連絡先> 090-4655-1936 (代表携帯)

<設立年> 平成 21 年 8 月
(鳥取県初の傾聴ボランティアグループ)

<会 員> 現在 25 名。元保育士の方や、医療関係の経歴をお持ちの方もおられますが、一般の方がほとんどです。



会員同士での傾聴の様子

「傾聴ボランティア」の活動とその目的

お話相手を必要とされている方を訪問し、その方の思いをありのまま受け止めて、聴かせて頂くボランティア活動をしています。話し手の方が喜びを感じ、笑顔になっていく様子に出会えると会員自身も喜びと達成感を感じます。お話を真心込めて聴くことで、相手の方と強い絆を築き、さらに幸せを実感していただけるように、との思いを持って活動しています。

活動していく上で大切にしていることや想い

「聴く」とは、漢字が示す通り、単に耳だけではなく、目や心で聴く事が重要だと私たちは考えています。また、非言語コミュニケーションといわれる「表情、視線、身振り、手振り、姿勢、距離感」を大切に聴いています。傾聴は「受容」と「共感」の前提から成り立っているため、相手の話をありのまま受け止めて、感情を共有する事が話し手に対する姿勢として望まれます。この考え方は、皆さんのご家族や会社、地域社会など、様々な場面においても活用することができます。

私たちと一緒に、
誰かの思いに耳を傾けてみませんか？
会員募集中です。



【現在の活動内容】

米子市内の高齢者個人宅と高齢者施設へ、年間延べ 20 ヶ所以上、傾聴ボランティアに伺っています。

※会員一人当たり月 2 回以上 (多い方は 8 回)

《月例会》

毎月第 1 木曜日 13:30 から「ふれあいの里」2 階会議室で開催し、会員同士、傾聴のレベルアップを図ったり、交流を深めています。

傾聴はいつでも取り組むことができます

傾聴は上手く身に付けることができれば、日々の生活の様々な場面でも活用できるようになります。

「子どもだから、部下だから」と一方的に意見を否定したり、逆に全てを通すのではなく、相手の意見を尊重してから自分の意見を言えば、相手も耳を傾けようという意識を持ってくれるため、信頼関係が強まると感じています。

今後の目標

設立当初「傾聴」は「慶弔」^{けいちよう}と捉えられ、冠婚葬祭のボランティアと勘違いされていましたが、最近は知名度が上がり、活動範囲も広がりました。

現在、傾聴ボランティアの派遣依頼をたくさん受けていますが、スタッフの数が足りません。そのため、会員を増やすための広報活動を積極的に行っていきたいと考えています。そして、一人でも多くの方々の「幸せと笑顔」に寄り添える活動を今後も続けていきたいです。

どなたでもご参加いただけます！

毎月第 3 土曜日 13:30 から、
ふれあいの里 2 階会議室 (米子市錦町) にて、
傾聴塾を開催しています。
傾聴に関心のある方、お気軽にご参加ください。